

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	目標達成状況(任意)
1	2	【事業所と地域との関わり合い】地域包括支援センター、町内会長、民生児童委員、公民館長、認知症デイサービス事業所管理者等の出席によ開催していた「運営推進会議」は新型コロナ流行時から感染症予防のために自粛している。代わって「さつきからのお知らせ」を適宜発行し、事業支所内の様子を関係者に伝えているが、意思疎通は十分とは言い難い。	地域の福祉推進協力者にはこれまでと変わりなく事業所からの働きかけを続けていくことはもちろんだが、当の関係者自体も高齢化に直面していることから(つまり地域全体が高齢化しつつあるということでもある)、一律に事業所側が招集するのではなく、ビデオメッセージやインターネットを活用した新しいハブリッジの形態を研究する必要がある。	ホームページ製作を発注している管理会社と協議して、事業所と関係者、事業所と利用者家族、事業所と家族介護者というように、様々な関係者の交流が可能になるようなメディア戦略を構築していく。	12 か月	
2	12	【就業環境の整備】本質的に介護現場は肉体的には言うに及ばず精神的、頭脳的に始終緊張を強いられる職種であることから、様々なストレスの管理軽減に最も意を用いる必要があることは言を俟たないが、利用者個々の認知症の進行状況によっては、単に介護者の善意ばかりに期待して就業環境の整備に遺漏があってはならない。	残業ゼロは創業以来の社是であり、かつ時代の要請でもあることから今後も堅持していくことは当然であるが、それ以上に現行の週休2日から週休2.5日に拡大していくことを検討する。	適正な休日取得は健全な家庭生活を営むための、そして意欲的な就業態度を生むための基本的な構成要素であるという認識を新たにしつつ、家庭での健康器具の購入や長期リフレッシュ休暇の導入も視野に入れて長期戦略に取り組む。	12 か月	
3	21	【本人を共に支え合う家族との関係】二十年前の事業所開設時は家族も50代～60代の壮年期で、気力面でも体力面でも親の介護に十分意を尽くす状況にあったが、此処にきて家族も70代～80代を迎え、往年のようなバイタリティを望むのは実際問題として無理がある。そこで「本人を共に支える」から「本人と(年老いていく)家族も共に支える」という観点が必要になって来る。	家族が一番望むのは親の健康な生活であることは言うまでもないが、高齢化しつつある家族が本心から望むのは「親も大事だが自分自身の高齢化にどのように対処していけば好いか」という事ではないだろうか。この視点から「家族本人の健康相談、介護相談」にも支援体制を拡充する必要がある。	月例の「さつきだより」に家族相談コーナーを設け、情報提供とよろず相談窓口とし、気軽に意見投稿やお尋ねの声を募るように働きかけると共に、ホームページに「なんでも介護相談」や「健康質問箱」のような家族と介護者の交流の場を設けることを研究する。	12 か月	
4	36	【急変や事故発生時の備え】利用者が認知症の重度化のみならず、加齢による身体機能の自然的減退に注目するとき、突発的な心身機能の急変は言うに及ばず、転倒や誤嚥、熱中症、感染症等の事故発生時において、迅速かつ適正な対応方法を常に準備しておくことは自明の理である。	当事業所は医療職、看護職を配置しない条件から、例えば蘇生術や人工呼吸法などは、サービス対象外であるが、基本的な知識としてそれらに通じておくことは何ら不都合ではない。しかし通常の介護業務で日々忙殺されている現状からは中々現実的には難しいのが実情である。	一定の物理的制約の中でも、インターネットや電子書籍を通じて左に述べたような、急変時や事故発生時の対処方法を学ぶことは可能である。また救急車を要請する際にも、救急隊員に対して適確、迅速に症状の説明が可能になるという利点にも留意する必要がある。	12 か月	
5					か月	

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。

サービス評価の実施と活用状況表

事業所のサービス評価の実施と活用状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容
実施段階		(↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備		①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		②利用者へサービス評価について説明した
		③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		⑤その他()
2 自己評価の実施		①自己評価を職員全員が実施した
		②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)		①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		②評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開		①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った(予定である)
		④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		⑤その他()
5 サービス評価の活用		①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		③「目標達成計画」を市区町村へ説明し、提出した(する)
		④「目標達成計画」に則り、目標達成に向けて取り組んだ(取り組む)
		⑤その他()